

常任委員会の活動 社会厚生常任委員会

平成24年7月2日～3日に先進地研修を行いました。

特定健診受診率向上の取り組みについて

妙高市は、人口3万5664人、高齢化率は29.7%と、阿賀野市と比較して約3%高くなっています。平成22年度特定健診受診率は58.2%（阿賀野市35.5%）で県内1位。様々な取り組みを行った結果、医療給付費で約2500万円の減額になったとのことでした。

受診率向上に向けては、①集団検診への受診勧奨 ②診療情報提供書制度の実施 ③しせつプロを活用した取り組みなどを行っていました。

富山型サービス事業について

富山型サービスは、平成5年に富山赤十字病院を退職した3人の看護師が開所したデイケアハウスで、赤ちゃんからお年寄りまで、障がいの有無に関わらず受け入れたことから始まりました。民家を改修し、地域と密着した「ひとつの家」で、高齢者・障がい者（児）・乳幼児を同時に処遇する「共生」をキーワードとしており、登録事業所は47事業所となっています。

富山型のメリットとして、①子どもと触れ合うことによる日常生活の改善や会話促進という高齢者や障がい者への効果 ②お年寄りや障がい者などへの思いやりを身につける児童の育成面での効果 ③地域住民の福祉の拠点となる効果をあげています。

現地視察した事業所では「地域との共生」「多

平成24年8月9日に所管事務調査を行いました。

水原郷病院民営化後の状況について

平成24年度第1四半期時点での収支状況等について説明を受けました。

収入については、患者数が計画を大きく下回っており、医業収益では計画対比94.19万円の未達（86.2%）。《内科常勤医の病欠や近隣の介護施設の増加も影響していると考えられるが、入院患者の減少は全国的な傾向》費用については、患者数の減少とともに節約や内容見直しに努め、結果として当期利益金はかろう

また、住民の健康度向上には、受診率の向上とともに健診結果に基づく保健指導も重要であり、こちらについても各種取り組みを計画していました。

当市としても妙高市に学ぶべき点が多くあり、とりわけ医療機関からの診療情報提供制度は注目しているものであり、当市単独での取り組みよりも医師会管内の各自治体との連携がより重要と感じました。

世代との共生」「環境との共生」をテーマとして運営されており、代表者の熱き思いを伺うとともに、地域の方々の理解協力度の高さも感じました。



現地視察した「なごなるの家」

じて黒字となっていました。

このような現況に対して、入院患者の増加策や収入増加策を検討中であるとの報告でした。

委員からは、対策に具体性を欠くことや、医師の増員確保、診療内容の充実等、民営化目的の主旨原点はなんだったのか疑問が出され、設置者である市としてこのような病院の現状を認識し、市民から信頼される病院づくりに向けてしっかりと対応するよう強く要望しました。

平成24年7月10日に先進地研修を行いました。

農地と観光資源による地域活性化の取組について

笠間市は東京から約100km、茨城県の県央西部に位置しています。周辺を山々に囲まれ、年間を通して気候は穏やかで、古くから城下町、門前町として栄えてきました。市内には笠間城跡、笠間稲荷など歴史ある文化財の他、笠間焼で知られる陶芸のメッカでもあることから陶芸ギャラリーや美術館などの豊富な観光資源を有しており年間約300万人の観光客が訪れます。

一方で、市の主産業である農業は全国的に抱える課題でもあるように就農者の減少と高齢化が進み、農地は年々荒廃しているのが現状です。このような背景のもと、農地と豊富な観光資源を活用して都市住民に農業体験や環境に恵まれた地域でのくらしといった特色あるサービスを提供しながら、地域の活性化を図る目的で平成13年に本格的な滞在型市民農園「笠間クラインガルテン」をオープンしています。都市に暮らす人々の生活の第二の拠点として、地域住民と交流しながら草花や野菜を栽培して心身ともにリフレッシュできる施設を目指し、宿泊施設付き市民農園や日帰り市民農園を有し、その他にも農園施設、農産物直売所、そば処、クラブハウス、屋外交流施設、公園等を整備してきたものです。

平成24年8月10日に所管事務調査を行いました。

国道49号阿賀野バイパスの進捗状況について

阿賀野バイパス事業については、計画区域における月崎地内の遺跡の発掘調査8,600㎡が実施されている一方で、平成23年度に引き続き、揚川改良工事で発生する大量の掘削土を運搬し、京ヶ島地先及び窪川原地先に搬入する盛土工事が計画されています。また、この事業の進捗にあわせて円滑な交通網を確保するため

担当者からこの取組に至った経緯、施設の運営方法や成果について概要説明を受けたあと、出席した委員から当市の置かれている現状や課題を踏まえながら、地域活性化に向けた事業取組についての意見が出された他、先進地である笠間市が現在抱えている課題や問題点、将来に向けての事業方針や考え方について質問がなされるなど、当市の活性化に向けて積極的に研修、意見交換が行われました。



50区画ある宿泊施設付き市民農園

に、バイパスに接続する市道の整備も計画、順次着工整備されてきています。

委員からは、平成24年度の事業計画、特に現在進められている山口野中遺跡の発掘調査の状況や今後の見通し、阿賀野バイパス事業進捗への影響、来年度以降の事業計画等について意見が出されました。